

阿部昭教授 研究業績一覽

I 著書

一 単著

『近世村落の構造と農家経営』（文献出版）

一九八八年四月

『下野の老農小貫万右衛門』（下野新聞社）

一九八二年一月

『江戸のアウトロー』（講談社メチエ一五二）

一九九九年三月

二 共著

『幕末の農民一揆』（雄山閣出版）

一九七四年二月

『栃木県の歴史』（山川出版社）

一九七四年九月

『栃木県史』通史編四近世一（栃木県）

一九八一年三月

『栃木県史』通史編五近世二（栃木県）

一九八四年三月

『藤原町史』通史編（藤原町）

一九八三年三月

『芳賀町の歴史』（芳賀町）

一九八三年三月

『ふるさと栃木県の歩み』（栃木県教育委員会）

一九八六年一〇月

『真岡市史』七近世通史編（真岡市）

一九八八年三月

『馬頭町史』（馬頭町）

一九九〇年三月

『壬生町史』通史Ⅰ（壬生町）

一九九〇年一〇月

『新版栃木県教育史』上巻・通史編（栃木県連合教育会）

一九九〇年一月

『西那須野町史』明治以前史（西那須野町）

一九九二年三月

『いまいち市史通史編二』（今市市）

一九九五年三月

『南河内町史通史編近世』（南河内町）

一九九七年三月

『いまいち市史通史編三』（今市市）

一九九五年三月

『栃木県の歴史』（山川出版社）

一九九八年二月

『小田原市史通史編近世』（小田原市）

一九九九年三月

『日光道中と那須野ヶ原』（吉川弘文館）

二〇〇二年四月

『芳賀町史通史編近世』（芳賀町） 二〇〇三年三月

『明治維新期の民衆運動』（岩田書院） 二〇〇三年三月

『いまいち市史通史編四』（今市市） 二〇〇四年三月

『栃木県歴史の道調査報告書第一集 日光道中・日光

道中壬生通り・関宿通り多功道』 二〇〇八年三月

『栃木県歴史の道調査報告書第二週 日光光弊使道・

奥州道中』（栃木県） 二〇一一年三月

## II 論文

『田中正造論』『五峰』創刊号（黒磯高等学校校紀要）

一九六七年三月

『社会科における課題解決学習の研究―日本史の授業  
を例として―』『昭和四四年度栃木県教員研究奨励研

究』（栃木県教育委員会事務局指導課） 一九七〇年七月

『国産政策と百姓一揆―黒羽藩における幕末の仕法改

革―』（『栃木史論』九・一〇合併号） 一九七二年一月

『芳賀郡上延生村における近世村落の成立とその問題

点』（『宇都宮女子高等学校研究紀要』） 一九七三年一月

『黒羽藩の藩政改革』『栃木県史研究』六（県史編纂委  
員会） 一九七三年一月

『農村荒廢下における村方地主の存在形態―下野国芳

賀郡小貫村万右衛門家の経営を中心に―』（『栃木県史

研究』一〇（県史編纂委員会） 一九七五年一二月

『黒羽藩』『新編物語藩史二』（新人物往来社）

一九七六年七月

『近世後期北関東の農業構造―野州主穀生産地帯を中  
心に―』『関東近世史研究』八 一九七六年九月

『幕末・明治初期の庶民の食生活―人ひとりで米をど

れだけ食べるか―』『鹿沼史林』一六 一九七七年二月

『幕末期野州麻生産地帯における農家経営』『野州史学』

四 一九七七年四月

『寛政期における幕府代官の地方支配の展開』『栃木県  
史研究』一六・一七 一九七九年三月

『幕末維新期の農業構造―野州麻特産地帯について―』

津田秀夫編『近世国家の解体と世直し』（校倉）

一九七九年一月

「幕末維新期野州における手作り地主経営の存在形態

—下野国河内郡下蒲生村田村仁左衛門家を中心に—

一九八六年九月

「栃木史研究」一八

一九七九年二月

「近世中期の北関東と農業生産」『歴史手帖』八七

「近世における民衆の休日慣行とその論理」二二『人文学会紀要』（国士館大学文学部）一九八八年一〇月

「天保期の農村」『講座日本近世史六』（有斐閣）

一九八一年一月

「鬼怒川上流域における林業地帯の形成」『栃木県史研究』二二

一九八一年四月

「史料紹介・『勸農教諭書』上・下巻」『栃木県史研究』二四

一九八三年三月

「近世後期北関東における林業の発展—鬼怒川上流域の売木人を中心に—」北島正元編『近世の支配体制と社会構造』吉川弘文館

一九八三年九月

「日記・覚書から見た真岡の慶応四年」『真岡市史案内』三

一九八四年九月

「近世における鬼怒川上流域の筏流し」『徳川林政史研究所紀要昭和六〇年度』

一九八六年三月

「関東の畑作について」『農書を読む』八

「遊び日の編成と共同体機能」『近世国家と明治維新』（三省堂）一九八九年八月

「検証宇都宮藩糊摺騒動」『宇都宮重宝記』一六（随想社）一九八九年一〇月

「中小河川流域の歴史的景観と近世の開発」『人文学会紀要』二二（国士館大学文学部）一九九〇年一〇月

「日光道中の公用通行と役の編成」『壬生町立歴史民俗資料館第四回企画展示図録』一九九〇年一〇月

「近世村落の変質」『日本村落史講座七』（雄山閣出版）一九九〇年五月

「書評 高橋敏著『近世村落生活文化史序説—上野国原之郷村の研究—』」『史潮』新三〇 一九九二年二月

「近世村落の労働と休養の管理システム」『鹿沼史林』三二 一九九二年二月

一九九二年二月

「近世村落の年中行事と「休み日」の慣行について―

史文化研究会

一九九七年八月

関東農村における「御事」の日の編成を中心に―」

「日光領における維新変革期の民衆運動と民衆意識―

【国士館史学】一（国士館史学会）

一九九三年五月

地域社会秩序形成期の指導者の生成と民衆運動からの

「享保の日光社参における公儀御用の編成」【人文学会

乖離―】「地域社会と近代化シンポジウム会報」四

紀要】二六（国士館大学文学部）

一九九三年一〇月

一九九七年九月

「近世中期の村社会の動揺とその再編―小田原藩領西

「日光山領における国産国益政策の展開」【人文学会紀

相模地方の地域社会の構造を中心に―」【おだわら―

要】三二（国士館大学文学部）

一九九九年一二月

歴史と文化―八（小田原市）

一九九五年二月

「日光山領所務定法の成立過程」【国士館史学】八

「尾張家日光予参御用懸の実務記録―將軍吉宗の日光

二〇〇〇年三月

山参詣の舞台裏―」【国士館史学】三 一九九五年三月

「無宿人と江戸の治安対策」【歴史読本】七三九

「休日定め」と村の公共性」【木村礎著作集月報四】

二〇〇一年七月

（名著出版）

一九九六年九月

「日光領における寛政改革期の農村支配と民衆運動」

歴史的評価の方法をめぐって―」【人文学会紀要】

【人文学会紀要】二九（国士館大学文学部）

二〇〇八年三月

一九九六年一〇月

「二宮尊徳の仕法請負に関する諸問題」【二宮町史研究】

【菊池勇夫著】「飢饉の社会史」【日本歴史】五八四

五

二〇〇九年二月

一九九七年一月

「近世奥州道中における往還橋梁整備の進展―下野国

「相給村の一統寄合機能」【歴史と文化】六（栃木県歴

内の大中河川の渡河方法を中心に―」【国士館史学】

一四 二〇一〇年三月

「二宮尊徳自家再建期の経営について―『全集』掲載史料の読み直し―」『国士館人文学』二

二〇一二年三月

「『報徳思想』の成立と『若林自脩作文集』について」

『国士館史学』一六 二〇一二年三月

「『若林自脩作文集』の翻刻と補注」『国士館史学』

一六 二〇一二年三月

「不退堂聖純著『壘田報徳序』より見た成立期の報徳

思想」『国士館史学』一七 二〇一三年三月

「二宮尊徳の櫻町仕法と報徳思想の成立―仕法着手の

史料論的研究―」『地方史研究』掲載予定

二〇一三年一二月

「櫻町仕法の成果と実態―報徳仕法の歴史的意義―」

『文書館研究紀要』（栃木県立文書館）掲載予定

二〇一四年三月

「仕法永久相統論と報徳思想の成立」『関東近世史研究』

（関東近世史研究会）掲載予定 二〇一三年

以上（二〇一三年一月末現在）